

第9回国際農業物理学会のお知らせ

2005年8月28日から8月31日まで、9-th International conference Agrophysicsがポーランドのルブリンで開催されます。この会議では、基礎から応用、実験方法、理論、モデルなど農業物理に関する話題全般が対象となっています。したがって、土壌物理学会の会員の多くが会議の趣旨に沿った研究をされていると思います。現在 first circulation が出ております。Abstractの締め切りは5月30日です。開催地はマリーキュリーが生まれ育った町で、マリーキュリー大学があり、近くには世界最古のコペルニクス大学もあります。

この会議の情報は、インターネットから入手してください。

<http://ica.ipan.lunlin.pl>

シンポジウムの開催（後援）

名称：第3回汚染堆積土に関する国際シンポジウム
(Third International Symposium on Contaminated Sediments)

期日：2006年5月23日～5月25日

場所：静岡市

目的：海底や湖沼底、および陸上地盤は、生態環境の基盤を提供する一方で、汚染物質の到達地・涵養地であ

り、人間への食物等を通した連鎖的影響を鑑みると、その化学的・生物学的環境の維持・修復は、種の存続に関わる危急的課題として捉えられます。

本シンポジウムでは、海洋学、湖沼学、堆積学、土壤化学、地盤工学、環境工学など様々な分野における国内外の第一線の技術者・研究者が一同に集い、海底等の汚染堆積土の環境調査、評価、管理、保全、再生に関する最近の技術および研究成果発表と議論を通して、課題解決に向けた研究成果の有機的連携と発展を模索することを目的とします。

本シンポジウムはカナダ・ケベックにて2003年に開催された第2回同名シンポジウムを引き継ぐものであり、顕在化の著しい地盤環境問題に関する学際的な情報交換の場を提供するものです。

[地盤工学、海洋学、堆積学、土壤化学、農業工学および環境工学系の技術者・研究者および学生向け]

主催者：ASTM (American Society for Testing and Materials)

連絡担当者：「第3回汚染堆積土に関する国際シンポジウム」組織委員長 福江正治

(静岡市清水折戸3-20-1 東海大学海洋土木工学科)
本学会以外の共催・後援・協賛予定団体等：

東海大学、海底環境研究会、(社)地盤工学会、(社)農業土木学会、日本海洋学会、静岡県、静岡市ほか